

モモのカイガラムシ類情報第1号

平成22年4月28日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

防除適期はクワシロカイガラムシは5月16日～19日で
ウメシロカイガラムシは5月13日～15日です。
昨年より5日前後遅くなっています。

1 モモのカイガラムシ類について

モモを加害する主なカイガラムシ類は、クワシロカイガラムシ（以下クワシロ）とウメシロカイガラムシ（以下ウメシロ）で、2種の形態はよく似ています。受精した雌成虫は枝幹などに寄生して越冬します（図1左・中）。例年4月下旬頃から産卵が始まりますが、卵や雌成虫は殻に覆われて薬液が虫体に付着しにくいため、この時期の農薬散布効果は高くありません。農薬による防除効果が高い時期は、ふ化が始まってから幼虫（図1右）の大多数が枝幹に定着するまでのわずか3、4日間です。この時期を逃すと防除効果は急激に下がります。また、気温によりふ化幼虫の発生ピークが変動するので、年により防除適期は数日前後します。



越冬状況



殻に覆われている雌成虫



ふ化幼虫（体長0.25mm）

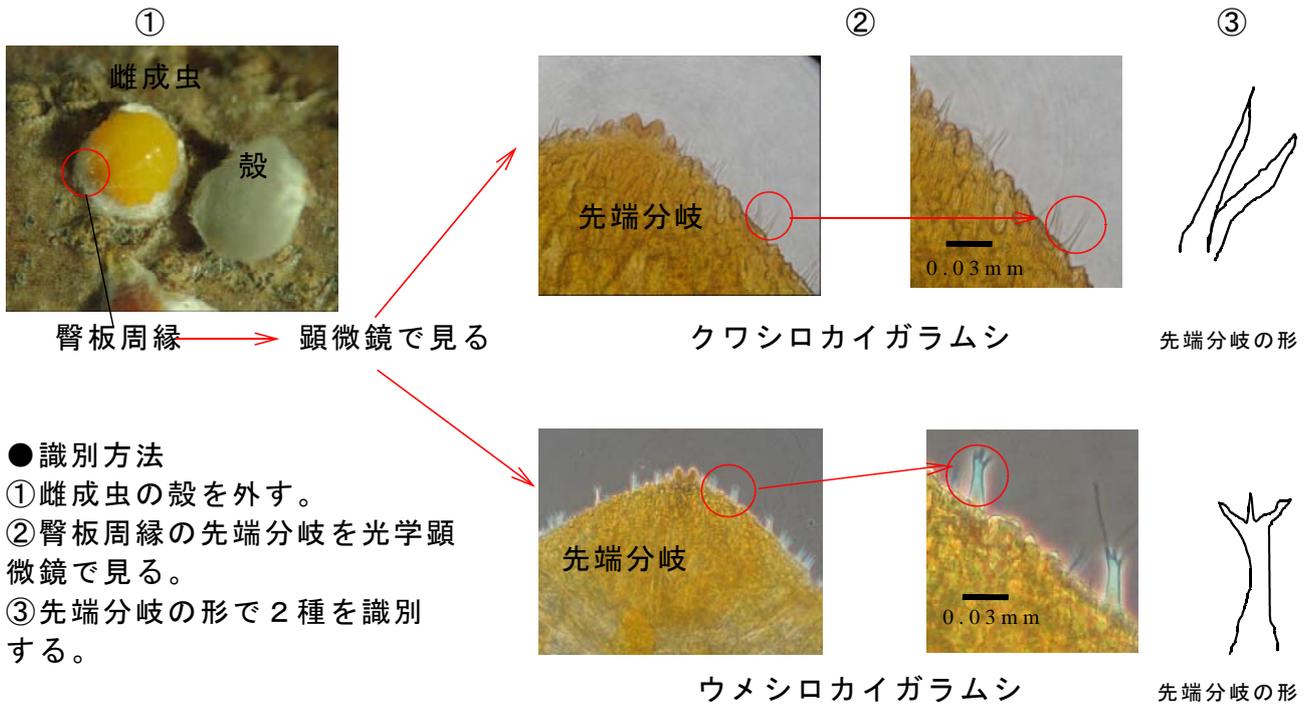
図1 モモに寄生するウメシロカイガラムシ

2 クワシロとウメシロの分布状況

モモ主要産地における2種の発生分布調査を実施した結果、小牧、春日井、豊田、豊橋地域ではクワシロが主に発生しているほ場が多く、犬山、扶桑地域ではクワシロとウメシロが混生しているほ場が多いことが分かりました。

3 クワシロとウメシロの識別方法

防除適期である第1世代ふ化幼虫の発生ピークは、ウメシロの方がクワシロより3、4日早いです。適期に防除するためには、ほ場で発生しているカイガラムシ類の種類を把握することが重要です。識別する場合は、ほ場内から雌成虫を採取し、殻を外し、^{でんぼん}臀板周縁の先端分岐の形を光学顕微鏡で確認します（図2）。



- 識別方法
- ① 雌成虫の殻を外す。
 - ② 臀板周縁の先端分岐を光学顕微鏡で見る。
 - ③ 先端分岐の形で2種を識別する。

図2 クワシロカイガラムシとウメシロカイガラムシの識別方法

4 防除適期予測

有効積算温度を利用したクワシロ及びウメシロ第1世代ふ化幼虫の発生ピーク予測日は、クワシロは5月16日から5月19日で、ウメシロは5月13日から5月15日です（下表）。

本年は3月下旬から4月下旬にかけて気温が昨年より低く推移しており、第1世代ふ化幼虫の発生ピーク日は、昨年より3日から7日遅いと予想されます（下表）。

クワシロカイガラムシ及びウメシロカイガラムシの第1世代ふ化幼虫発生ピーク日予測

	クワシロカイガラムシ						ウメシロカイガラムシ					
	東海	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	東海	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋
本年予測	5/16	5/17	5/16	5/19	5/17	5/19	5/13	5/14	5/13	5/15	5/13	5/15
(前年)	5/11	5/10	5/11	5/13	5/12	5/13	5/8	5/8	5/8	5/11	5/10	5/11
前年差	5日遅	7日遅	5日遅	6日遅	5日遅	6日遅	5日遅	6日遅	5日遅	4日遅	3日遅	4日遅

注) 本年予測月日は、4月25日までの気温については、本年実測値を、それ以降は平年値（豊橋のみ前年値）を用いて計算。）

前年については、前年気温の実測値を用いて計算。

5 防除

ふ化幼虫の発生時期が比較的そろそろ第1世代のふ化幼虫発生ピークが防除適期です。それぞれのほ場で主に発生しているカイガラムシ類を対象に上表から防除適期を予想し、アプロード水和剤等で薬剤防除しましょう。なお、アプロード水和剤は遅効性ですが、残効性に優れているため、発生ピーク予想日より数日早めに散布しましょう。

なお冬期（年明け前まで）のマシン油剤による防除は効果的です。また早春の幹の粗皮削りは、越冬卵のうを減少させるのに有効です。